

2020年2月21日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 日本共産党三鷹市議会議員団 代表者名 大城 美幸

1 視察年月日	2020年1月30日（木） ～ 2020年1月31日（金） （1泊2日）
2 視察者氏名	<u>大城 美幸</u> <u>栗原 けんじ</u> <u>紫野 あすか</u> <u>前田 まい</u> _____ _____ _____ _____ 計 4 人
3 視察先及び視察項目	(1) 岐 阜 都・道・府・ (県) 各務原 (市) ・町・村 ア 各務原市DIY型空き家リノベーションについて (2) 広 島 都・道・府・ (県) 三 次 (市) ・町・村 ア 三次市ぐんぐん事業(ぐんぐん教員)について
4 視察結果等	別 紙 参 照



1 岐阜県各務原市を視察

三鷹市においても空き家対策の実態調査や事業所との連携を始めたところですが、実際の空き家活用というところまではすすんでいません。各務原市における実際の空き家のリノベーション事業の取り組みは空き家の所有者と借主のマッチングや契約の流れを、市と民間企業、大学、金融機関の四位一体となってサポートし、市と事業者の協力体制を構築し推進されているとの事、実際のリノベーションの取り組みについて学びたく視察を行いました。

各務原市は人口が148,081人で三鷹市とほぼ人口も近く、支出総額が487.1億円ということです。子ども医療費助成も15歳まで所得制限なしで行っており、子育て支援に力を入れている自治体だと思い、視察候補に選びました。

都市建設部、建築指導課主任主査兼住宅係長から、事前にお伝えした質問についてパワーポイントでの説明を受けました。

① 各務原市DIY空き家リノベーション事業を実施するに至った経緯について

人口減少社会の到来の前に、「選ばれる都市」の実現に向けて、今こそ、「各務原市のブランドイメージを確立し、移住定住人口の増加につなげたい」、「大都市でもないのに、おもしろいことをしないとだめだ!」との思いから、市民のくらしの満足感・幸福感を高め町への愛着・誇りを持ってもらおうとメインターゲットを20代、30代とし、空き家を活用しようと考えたようです。シティプロモーションの目標をかかげて、広報活動は、広報の部署が専門的に担当して市内外に宣伝活動を行うこととしたそうです。

② 各務原市DIY空き家リノベーション事業のサポート体制の構築をどのように取り組んだのか

まず「産官学金」の連携・協力体制を整え、協定を締結し、産官学金でそれぞれ役割を決めて取り組んでいます。

- 産→H28は業務委託 H29以降は「推進会議」設立
空き家リノベーション事業推進会議 令和元年12月現在 20社
- 官→空き家所有者の掘り起こし
- 学→リノベーション案の製作 岐阜女子大学との連携、実施研修を含めたカリキュラム
- 金→改装資金の融資（市内に支店のある金融機関9行）

そのほか、市外在住の空き家所有者には、固定資産税の納税通知書と一緒に、空き家見守りサービスとしてシルバー人材センターなどを紹介し樹木の選定など適正管理に協力をお願いしているとともにふるさと納税の返戻金として空き家見守りサービスが使えるようにもしていました。

③ 各務原市における空き家の数について

全国の空き家の数は約848万8,600戸（空き家率13.6%）です。

各務原市の空き家はH25で7,980戸、H30で8,300戸（空き家率13.0→13.2%）となっています。

その中で活用されていない空き家数2,540戸から、H30で3,200戸4.1から5.1%と増加しているそうです。

実態調査の中で「他に売却したい」が44.6% 「賃貸として運用したい」が14.5%ありました。

④ 各務原市DIY空き家リノベーション事業の実績・現状について

契約実績はH28に3件、H29に7件、H30に10件、H31に7件でした。

年代別では20代が1世帯、30代が13世帯、40代が4世帯、50代が1世帯、60代が3世帯、80代が1世帯でした。

世帯人数別では、一人暮らしが6世帯、2人暮らしが7世帯、3人以上が10世帯です。

⑤ 各務原市DIY空き家リノベーション事業の効果と課題について

空き家が飛躍的に活用され解消するというものではないが、空き家関連の苦情・相談が293件あり、81件解決し、そのうちDIYは8件でした。二人の職員でやっているので大変だろうと思ったが、まちづくりの苦情相談、広報、など役割分担がきちんとされていて、うまく連携していることに感心しました。

H29年には移住定住総合窓口を設け、来訪者は12,351人。相談件数340件、32世帯73人が移住し、相談者も20~40代が7割占めたそうです。

相談の32世帯の内、DIYによる移住が13世帯、通常の賃貸が22世帯でした。

DIYのメリットは、借主が自由に内装を変えられることができ、返す時の原状回復の義務がないこと。内装、改装の際、岐阜女子大学の学生が手伝ってくれるのも好評のようです。

今後の課題は、地域・エリアを決めて地域の価値を高められないか、借りる人、移住する人を探すだけでなく、こちらからアパートや古民家を学生のアイデアでリノベーションして発表会を開催したり、広報にもっと力を入れていきたいとのことでした。

三鷹市では、空き家の実態調査はしたものの、貸したい人と借りたい人のマッチングがうまくいかず、空き家の活用そのものの実績がゼロなので、各務原市の取り組みをぜひ、三鷹市でも取り入れ活かしていければと思った次第です。

2 広島県三次市

三鷹市において学校公開を参観すると、教員が大きな声をあげて生徒を呼んだり、指導したりしている姿が見受けられます。多動やアスペルガーの生徒もクラスの中にはいて、教員が苦勞している様子が伺えます。少人数学級であれば、一人ひとりの生徒に向き合っただけで教員が生徒にゆとりをもって勉強を教え、接することも可能と考えることから、独自の予算を出して教員を確保し、少人数学級や少人数授業を実現し、取り組まれておられる三次市のぐんぐん事業について学びたく視察をお願いしました。

視察当日は議長が迎えてくださり、あいさつをいただきました。もともとは農業と観光に力を入れてきたそうですが、昨年新たに43歳の市長が子育て日本一を目指して、子ども医療費を18歳まで入院・通院とも所得制限なしで無償化していることを議長が紹介してくださり、議会としても子育て日本一を後押ししている熱い思いを訴えてくれたのには驚きました。

三次市学力ぐんぐん事業とは、小学校は、全学級を30人程度の学級とし、生活・学習集団を少人数化することにより、個に応じたきめ細かな指導をすすめ、基本的な生活習慣と学習規律の確立を図るとともに、児童一人ひとりに基礎・基本を定着させ、確かな学力の定着を図ることを目的としています。

中学校は、特定の郷かについて、習熟の程度に応じたきめ細かな指導を行うことにより、確かな基礎学力の定着と学ぶ意欲を育てる授業です。

担当より三次市学力ぐんぐん事業について説明をしていただきました。

三次市では、従来は学級担任は県教委が任用した教諭となっていたのを、個に応じたきめ細

かな指導、基礎・基本を定着させようと平成 15 年、全国に先駆けて「教育都市みよし特区」として、市費で学級担任可能な教員を任用できるようにしました。三次市の取り組みが評価され、平成 17 年度末で特区制度が解消となり、現在は全国各地の市町村で市費教員を任用できるようになりました。

平成 16 年度より、市費で教員、障害児介助指導員、事務職員を採用、平成 20 年度からは、学校支援員として、教員免許を持っている人で担任ができる人を採用。平成 26 年度からは 5～6 年生の理科支援員、30 年度からは外国語指導員を採用しました。令和元年度から教員免許をもたない、授業はできない教育支援員と教務補助事務員を採用したとの事です。

採用した教員に事前研修や「授業力アップを支える、またやる気と情熱を支える」授業研修など、サポート体制も年間計画に組まれていました。相談については、教育委員会で随時受け付けているとの事です。

市費教員の基本給は、月額 20 万～30 万円で、勤務経験や選考試験の結果により「初任給」を決定しているとの事です。勤務評価によって昇給もあり、賞与、諸手当（扶養・住居・通勤等）もあり、土日休日、祝祭日、年末年始がお休みとなっています。

休暇は、年次有給休暇が 6 ヶ月に 10 日。特別休暇は夏季特別休暇 3 日、産前産後休暇、病気休暇、整理休暇、公民権の行使、結婚、忌引き等となっています。

中学校教科指導講師の勤務条件は、市内の中学校において、学習指導にあたることで、勤務時数は、週 15 時間程度、報酬は 1 授業時間当たり 2,670 円となっており、令和 2 年度以降は会計年度任用職員制度の導入となるそうです。

少人数学級や少人数授業に取り組んだ成果と課題について伺ったところ、成果は「基礎・基本」の定着が県平均より大きくアップしたことだそうです。学力についても H15 年度は全国平均よりマイナス 0.9 から H23 年度プラス 2.5、H30 年度はプラス 4.6 になりました。また、30 人以下の少人数学級によって、つまずきの早期発見、解決に結びつき、きめ細やかな指導ができたそうです。児童生徒にかかわる時間が増えたことで市全体の学力向上の成果が得られたと分析されていました。

課題としては、家庭環境の多様化、配慮が必要な児童生徒の増加で、より一人ひとりに応じた生徒指導、学習指導を行うことができる市費任用職員の配置が必要と考えているとの事でした。

教員の男女比については、女性が多いとの事でした。

視察を終え、一人ひとりに目が行き届いた教育をしている様子が伝わりました。ただ単に勉強を教えるだけでなく、いじめ、不登校への対応もスクールカウンセラーやサポーターとも連携して取り組んでおられ、保護者からも手厚いということの評価を得ているそうです。

やはり、どの子にもわかる授業、学校が楽しいといえるようにするためには、少人数学級を実現して、教員が児童生徒一人ひとりにゆとりをもって向き合える時間を作ることが大事だと感じました。

三鷹でも少人数学級ができないものかと、つくづく思いました。

視察で学んだことを議員活動を通して、市民にも知らせ市政に少しでも反映できるようにしたいと思います。